

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	総社市立常盤小学校	実践者名	瀧本里美・メルシー
教科等	外国語科	学年	第6学年
		Stage	Stage 3
育成したい 資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する。 相手を意識し、わかりやすく表現する。 		
単元・内容等	「夏休みの思い出を発表しよう」		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	多くの学級で日常的に端末に触れる授業を実践している。文字入力については、中学年以降は手書き入力を併用しながらローマ字入力を主に使用している。		

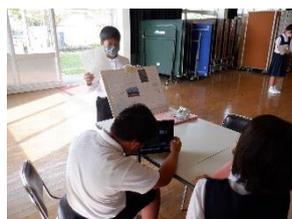
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する

めあて 資料を使って、夏休みの思い出を伝えよう

「伝え方」は児童自身が選んで取り組んだ



手書きの絵本



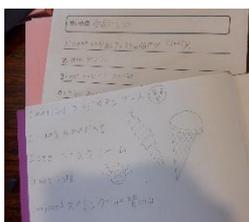
手書きのポスター



端末（オクリンク）



発表原稿も外国語で作成



- 英単語や発音を調べるために端末を活用した。
(例：I ate shaved ice with my family. など)



- 自分の発表の様子は友達に録画してもらい、ふりかえり場面で活用。動画は提出ボックス（オクリンク）に入れることで、教員による評価にも活用した。



実践者の手ごたえ

様々な発表方法があったが、児童が自分に必要なタイミングで端末を活用していた。発表の手段としての端末活用だけでなく、文房具のように活用できたと思う。

児童の振り返りや反応等

(児童の感想から)
「習っていない単語を使ったので、画像で表した。」「顔が下を向いているので気を付けたい。」「新しい発表方法にチャレンジしていてすごいと思った。」